

昭和軽薄体とその末裔 永江朗

(書評家)

かつて極私的エッセイで用いられる言文一致文体として世を騒がせた昭和軽薄体。

「正しい日本語を乱す」と糾弾する者も現れ、賛否両論吹き荒れたが、

強い印象を与えるながらも、そのブームは短命に終わつた、とされている。

だが、この昭和軽薄体が、実は今も息づいていたら……？

椎名誠『さらば国分寺書店のオババ』(情報センター出版局／一九七九)の登場は革命的だった。この本が出たとき、ぼくは大学三年生、二歳だった。

なぜあの本はぼくらを熱狂させたのだろう。まずはタイトル。「さらば」と「オババ」が効いたんだ。「さらば」と大げさに言ってみたけれど、別れを告げる相手は古本屋とその女主人である。日常の些末なことを大げさに語る。このギャップにグッときた。

カバーが大迫力。ピンクの着物を着た男が舞台の上でマイクを握っている。どこか田舎の歌謡ショーのよう。ぼくは小学校二年生のとき北海道上川郡当麻町立當麻小学校体育館で見た村

田英雄シヨーを思い出し、なぜか恥ずかしくていたたまれなくなった。イラストの描き手は湯村輝彦である。いいぜ、テリー・テリー画伯のイラストに被さるようにオレンジ色の四角い部分があり、そこにスミで「Century Press」、線を引いて、白抜きで「さらば国分寺書店のオババ」とある。さらにスミで「スーパーエッセイ Part1」、タイトル文字二行分ほどのアキがあり、横組み。デザインは田中一光だ。本文カットはいしいひさいち。なんて豪華なメンバーなんだろう。

当時の椎名誠は無名だった。カバーに「本の雑誌」編集長と椎名誠。すべて横組み。デザインは田中一光だ。本文カットは

ろの『本の雑誌』はまだ知る人ぞ知るミニコミというか同人誌というか、今までいうZINE(ジン)みたいなもので、一般の人はよく知らない。もつとも椎名さんは百貨店の業界専門誌の編集長だったので、その業界では多少知られていた。ぼくは一九八一年に西武百貨店系の書籍輸入販売会社に入るのだが、西武ブックセンターパーク(のちのリブロ、現N I Cリテールズ)の人たちはみんな彼を知つてましたね。

タイトルや表紙デザインだけでなく、中身が革命的だった。それまでエッセイとか隨筆とか随想といえば、名の知れた作家や画家や音楽家や学者や俳優や映画監督や詩人歌人俳人や政治家たまに実業家などが、身辺雑記や思つたこと

感じたことを書くか、あるいはモンティーニュの『エセー』のごとくなんとなく深淵で哲学的な思考を記すものだった。花鳥風月とその情感を詠む短歌や俳句の散文バージョンみたいな感じ。

庭に鶯が来たとか、三日月にうつすら雲がかかっているとか、朝顔につるべとられてもらひ水とかをちょっと長く書いてみましたがなんてふうに。椎名誠はそれをことごとくひっくり返した。いちばんの衝撃は文体だった。「なんてメチャクチヤな」と驚き、呆れた。「ですます」調になつたり「である」調になつたり、「だ」「なのだ」が挟まつたり。音引きの「ー」を多用して、たとえば「そういう」を「そーゆー」というふうに書いたり。文体の統一なんて無視。もちろん椎名誠は流通業界の業界誌の記者であり編集長だったからそういう出版業界ルールは百も承知で、でもこのスーパーエッセイでは敢えてルル破りをした。しかし椎名の文章からはそういう「破壊したるでえ！」とゆーよーな気負いはまったく感じられず、素直にコトバがぼくのなかに入つてくるのだった。

考えた。ちなみに三田誠広の芥川賞受賞作『僕って何』は一九七七年。

ここで『さらば国分寺書店のオババ』のカバーイラストを湯村輝彦が描いていることに注目したい。湯村輝彦といえばヘタウマである。『オババ』が出た翌年の八〇年には糸井重里との共著で『情熱のベンギンごはん』(情報センター出版局)という傑作絵本を出している。そしてヘタウマブームが来る。ファインアートの世界で、キース・ヘリングの子供の落書きみたいな絵や、日比野克彦の段ボールアートが注目されるのはこの少し後のこと。

文庫化されなかつた理由

先日、『さらば国分寺書店のオババ』を再読した。この本は一九七九年一月に情報センター出版局から出たあと、九三年に三五館で復刊される。三五館は情報センター出版局でこの本を手がけた星山佳須也が立ち上げた会社だ。その後、九六年に新潮文庫に入り、現在はクリーク・アンド・リバー社から「椎名誠 旅する文学館」シリーズの一冊として電子書籍版が出て

いる。電子書籍版には「文庫版のためのあとがき」と「対談 椎名誠×目黒考二」「電子書籍版あとがき」「椎名誠の人生年表」がついていておれを崩して昭和軽薄体を作つたのである。

受験国語の基準でいうと全然ダメな文章であるはずである。でも受験国語で推奨されるような正しい日本語よりも書き手の気持ちを伝える力は強い。「正しさって何?」と二歳のぼくは



『さらば国分寺書店のオババ』椎名誠
(情報センター出版局／1979)